

[B年] 復活節第4主日(2022年5月8日)**【旧約聖書日課】 レビ記 19章9～18節**

⁹穀物を収穫するときは、畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。¹⁰ぶどうも、摘み尽くしてはならない。ぶどう畑の落ちた実を拾い集めてはならない。これらは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。わたしはあなたたちの神、主である。

¹¹あなたたちは盗んではならない。うそをついてはならない。互いに欺いてはならない。¹²わたしの名を用いて偽り誓ってはならない。それによってあなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。

¹³あなたは隣人を虐げてはならない。奪い取ってはならない。雇い人の労賃の支払いを翌朝まで延ばしてはならない。¹⁴耳の聞こえぬ者を悪く言ったり、目の見えぬ者の前に障害物を置いてはならない。あなたの神を畏れなさい。わたしは主である。

¹⁵あなたたちは不正な裁判をしてはならない。あなたは弱い者を偏ってかばったり、力ある者におもねってはならない。同胞を正しく裁きなさい。¹⁶民の間で中傷をしたり、隣人の生命にかかわる偽証をしてはならない。わたしは主である。

¹⁷心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。¹⁸復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

【使徒書日課】 ヨハネの手紙一 4章13～21節

¹³神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださることが分かります。¹⁴わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証ししています。¹⁵イエスが神の子であることを公に言い表

す人はだれでも、神がその人の内にとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。¹⁶わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。¹⁷こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。¹⁸愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。¹⁹わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。²⁰「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。²¹神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

【福音書日課】**ヨハネによる福音書 13章31～35節**

³¹さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。³²神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。³³子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。³⁴あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

レビ記 19章9～18節

9土地の実りを刈り入れる場合、あなたがたは畑の隅まで刈り尽くしてはならない。刈り入れの落ち穂を拾い集めてはならない。10ぶどう畑の実を摘み尽くしてはならない。ぶどう畑に落ちた実を拾い集めてはならない。貧しい人や寄留者のために残しなさい。私は主、あなたがたの神である。

11盗んではならない。欺いてはならない。同胞どうして互いに偽ってはならない。12私の名によって偽りの誓いをしてはならない。あなたの神の名を汚してはならない。私は主である。

13隣人を虐げてはならない。奪い取ってはならない。雇い人の賃金を翌朝までとどめてはならない。14耳の聞こえない人を呪ってはならない。目の見えない人の前につまずく物を置いてはならない。あなたの神を畏れなさい。私は主である。

15裁きにおいて不正をしてはならない。弱い者を偏ってかばってはならない。強い者におもねってはならない。同胞を正しく裁きなさい。16民の間を回って、中傷してはならない。隣人の命に関わる偽証をしてはならない〔直訳→血の上に乗ってはならない〕。私は主である。

17心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を繰り返して戒めなさい。そうすれば彼のことで罪を負うことはない。18復讐してはならない。民の子らに恨みを抱いてはならない。隣人を自分のように愛しなさい。私は主である。

ヨハネの手紙一 4章13～21節

13神は私たちに、ご自分の霊を分け与えてくださいました。これによって、私たちが神の内にとどまり、神が私たちの内にとどまってくださることが分かります。14私たちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証しています。15誰でも、イエスを神の子と告白すれば、その人の内に神はとどまってくださり、その人も神の内にとどまりま

す。16私たちは、神が私たちに抱いておられる愛を知り、信じています。

神は愛です。愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。17このように、愛が私たちの内に全うされているので、裁きの日に私たちは確信を持つことができます。イエスが天でそうであるように、この世で私たちも、愛の内にあるのです。18愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します。恐れには懲らしめが伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。19私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。20「神を愛している」と言いながら、自分のきょうだいを憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見えるきょうだいを愛さない者は、目に見えない神を愛することができないからです。21神を愛する者は、自分のきょうだいも愛すべきです。これが、私たちが神から受けた戒めです。

ヨハネによる福音書 13章31～35節

31さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神は人の子によって栄光をお受けになった。32神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神もご自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。33子たちよ、今しばらく、私はあなたがたと一緒にいる。あなたがたは私を捜すだろう。『私が行く所にあなたがたは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今もあなたがたにも同じことを言うておく。34あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・5月8日「復活節第4主日」の日課主題は「キリストの掟」。復活のキリストを中心として弟子たちが教会の営みを進めるに際して、その核心となる教えに据えられたのが「愛すること」である。共観福音書は「最も重要な掟」として、ヨハネ福音書は「新しい掟(戒め)」として、明示的にこの教えを中心に据えている。ただし、この「愛すること」の対象を具体的にどこまで拡張して想定しているかは、福音書によって相違があると考えられる。「マタイ福音書」や「ルカ福音書」が最大限拡張した対象を想定しているのに対して、「ヨハネ福音書」はやや限定的に想定している。また、「マルコ福音書」は、これを概念化して対象範囲を想定することよりも、具体的で実際上の関係における問題として捉えているとみることができる。

・福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、最後の晩餐の席で主イエスが「新しい掟」に言及された箇所。旧約聖書日課は、「レビ記」から、対人関係における社会的責任を説く法規集の一部。使徒書日課は、「ヨハネの手紙一」から、神の愛に基づく愛の実践を教える箇所。

旧約日課(レビ 19章より)

・「レビ記」は、ユダヤ正典「律法」の第三巻で、「出エジプト記」から始まる「モーセ物語」の中に位置づけられるが、「物語」としての展開はなく、「出エジプト記」19~24章の「シナイ契約」に付帯する形で叙述される規定集であり、「幕屋」に仕える「祭司」を中心とした祭儀的共同体社会を基礎づける規範集となっている。「レビ記」の呼称は、七十人訳聖書(ギリシア語訳旧約聖書)から用いられてきたものだが、本書中で「レビ人」に関連する規定はわずか3節(25:32~34)に過ぎない。本書全体の構成は通常、「犠牲奉獻に関する規定」(1~7章)、「祭司任職と祭儀執行の規定」(8~10章)、「清めと汚れに関する規定」(11~15章)、「大祭司による民の贖罪の祭儀規定」(16章)、「神聖法集」(17~26章)、「誓願に関する奉獻物の扱い」(27章)、と整理される。

・日課箇所は、「神聖法集」の一部で、特にイスラエルの民が「聖なる者」であることを求める社会規範が示されるまとまり(19~21章)の中に位置する。「聖なる者」であることを求める規範性は、11章の食物規定にも見られる。19章は、特に広く社会生活を送る民一般に適用される内容が扱われており、より規範性が高いものとして位置づけられていると考えられる。

・18節後半「自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい」の直訳は、聖書協会共同訳。共観福音書の伝える「最も重要な掟の教え」や「マタイ福音書」の「山上の説教」で引用されている聖句だが、「山上の説教」でセットとなっている「敵を憎め」は、日課箇所の文脈にも、他の旧約中にも見いだされない。おそらく、17節「兄弟を憎んではならない」からの反対命題だろう。

使徒書日課(Ⅰヨハネ 4章より)

・「ヨハネの手紙一」は、「ヨハネ福音書」および「手紙二」「手紙三」と共に「ヨハネ文書」として扱われる書簡形式の文書。一連の「ヨハネ文書」は、仮に「ヨハネの教会(ヨハネ教団)」と呼ばれる教会共同体の中で起こった神学的な対立と分裂騒動に関連して、指導者(ヨハネ?)が共同体の和解と一致を進めるために著した文書と考えられ、ある学説では次のように説明されている。「ヨハネ文書」が著される前の「ヨハネの教会」では、キリストの人性を否定する「仮現論」や「グノーシス主義神学」に基づく現世否定の影響によって神学論争が生じ、さらにユダヤ会堂との関係悪化によって共同体内の対立にまで発展していたと推認される。共同体の指導者は、当初、「仮現論」を否定してキリストの人性を明示化し、信仰の現世的な意義を提示する一方、ユダヤ会堂との関係決裂を不可避のこととする指導方針をもって、原「ヨハネ福音書」を著し、共同体の一致を計った。しかし、これが却って共同体内の対立・分裂を助長させることとなったため、対応策として、共同体の一致を前面に打ち出す「愛の戒め」を根源的な教えとして提示する「手紙一」が著され、この趣旨に基づいた改訂版「ヨハネ福音書」(現在の正典に収められている福音書)が作成されたと推認されている。この改訂版「ヨハネ福音書」作成に際して、13~17章に置かれた教えは主要な改訂箇所であったと考えられる。

・「とどまる(メノー)」は「ヨハネ文書」に特徴的な用語で(新約文書中 120 例の内、約半数が「ヨハネ文書」中での用例)、「中にある／つながっている」などとも訳され、結合や一体性を意味する語として用いられている。日課箇所中では、原文で 5 例(13 節に 1 例、15 節に 1 例、16 節に 3 例)が見られる。「ヨハネ文書」中の用例では、ほとんどが「神(またはキリスト)との一体性」を意味する文脈で用いられており、「神の内」に人がとどまる場合(神への所属)も、「神が人の内にとどまる」場合(内在する神)も、ほぼ互換可能な表現として使われている。このような「神(キリスト)」との関係性のイメージは、「パウロ書簡」にも見られる(「フィリピの信徒への手紙」などに顕著)。

・日課箇所では、「ヨハネ文書」に典型的な「とどまる」の用法に加えて、「神」と「愛」を互換性のあるものとした上で、「愛にとどまる」という表現が見られる(16 節)。本書簡では、「神の愛がその人の内にとどまる」という概念がすでに示されているが(2:5、3:17、4:12)、ここでは明確に「人の行為としての愛」が想定されており、「神」と「人」を互換可能なものとして扱っていると考えられる。このことゆえに、21 節「神を愛する人は、兄弟をも愛す」が引き出されてくるのである。なお、「神を愛すること」と「兄弟を愛すること」を等価値に扱うべきことは、すでに 3 章でも明示されている。

・

福音書日課(ヨハネ 13 章より)

・日課箇所は、主イエスが十字架につけられる前夜、弟子たちと最後の食事の席を設けた際に語られた一連の教えの場面の中の一つで、主イエスが弟子たちの足を洗われた後の食事の際にイスカリオテのユダの裏切りを告知し、ユダが去っていくという場面において語られたという設定になっている。「新しい掟(戒め)」として示される「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」の句は、15章の「ぶどうの木のとえ」に続く箇所にも現れる(15:12)。

・「栄光を受ける(ドクサゾー)」の原義は「○○と考える／意見する」で、そこから転化して、対象を称賛する意味で用いられるようになった。「聖書」中では、もっぱら、「賛美する」「栄光を帰す」などと訳されている。「新約」中 61 例の内、半数近くが「ヨハネ福音書」での用例で、多くの場合、「父である神」と「人の子である御子」の間での相互承認的な作用として語られているが、「弟子」との関係性の中でも用いられる例がある(17:10 など)。

・34 節「掟(エントレー)」は、「命令」を意味する一般的な用語。新共同訳ではもっぱら「掟」と訳されているが、聖書協会共同訳ではもっぱら「戒め」と訳されている。

・34 節「互いに愛し合いなさい」は、「愛する」ことの相互性を強調しているが、これは、「あなたがた」つまり「弟子たち」の間で為されるべきこととして命じられていることによる。一方、共観福音書で語られる「愛」の教えは、「最も重要な掟」でも、「山上の説教」等でも、基本的に一方通行的な「愛」であり、「神／キリスト」が人に対して示される「愛」との類比性は、「ヨハネ福音書」の相互的な「愛」よりも高い。この相違する点をもって、「ヨハネ福音書」がある種の排他的な「愛」を想定していると推認する考えもあるが、むしろ、「ヨハネ福音書」が想定する読者の間で課題とされている事柄の焦点が共同体内の一致の問題にあることの反映と見るほうが適当だろう。35 節にあるように、「ヨハネ福音書」は決して内向きの問題意識に留まっているわけではなく、共同体の姿が外部にどう見られるかという観点で、教えを展開しているのである。

来週の誕生日 (5月8日～14日)

主日礼拝の讃美歌から

・21-127 番「み恵みあふれる」は、19 世紀フィンランド・ルーテル教会信徒でフィンランド文学の教授クローンが自らも携わった讃美歌集に収録した讃美歌。曲は、フィンランドの伝統旋律から採られた。WCC の 1974 年版讃美歌集に採用されて広まった。

・21-487 番「イエス、イエス」は、20 世紀スコットランド教会で按手を受けアフリカ宣教に従事した宣教師 T.S. コルヴァンが現地信徒ら自身に伝統音楽に基

づいて創作させた讃美歌集『*Fill Us With Your Love*』に収録された讃美歌の一つ。「主の洗足」の記事に基づいて主の愛に従う道を歌う。

・21-563 番「ここに私はいます」は、讃美歌創作運動の第一人者ブライアン・レンの作詞。スコットランドの社会福祉施設の委嘱によりクリスマス礼拝のために作詞。作曲のダニエル・C・デーモンは米国メソジスト派牧師で、ジャズ・ピアニストとしても活動中。

21-127「み恵みあふれる」

*Herrasta Veissa Kieleni**English Translation**O sing my soul, your Maker's praise*

1. O sing my soul, your Maker's praise / In grateful hymns ascending; / Whose steadfast love has crowned your days / With heav'nly gifts un ending. / I sought the Lord, He heard my cry; / His holy angels hover nigh / The tents of those who love Him.
2. The Lord is good to those who seek / His face in time of sorrow, / Providing comfort to the weak / And grace for each tomorrow. / Though grief may tarry for a night, / The morn shall break in joy and light / With blessings from His presence.
3. The Lord will turn His face in peace / When troubled souls draw near Him; / His loving kindness shall not cease / To those who trust and fear Him. / Our God will not forsake His own; / Eternal is His heav'nly throne; His kingdom stands forever.

21-487「イエス、イエス」

*Jesus, Jesus, Fill Us with Your Love**Refrain:*

Jesu, Jesu, fill us with your love, / show us how to serve / the neighbors we have from you.

1. Kneels at the feet of his friends, / Silently washes their feet, / Master who pours out himself for them.
2. Neighbors are wealthy and poor, / Varied in color and race, / Neighbors are nearby and far away.
3. These are the ones we should serve, / These are the ones we should love: / All these are neighbors to us and you.
4. Kneel at the feet of our friends, / Silently washing their feet: / This is the way we should live with you.

21-563「ここに私はいます」

Here Am I

1. Here am I, / where underneath the bridges / of our winter cities / homeless people sleep. / Here am I, / where in decaying houses / little children shiver, / crying at the cold. / Where are you?
2. Here am I, / with people in the line-up, / anxious for a handout, / aching for a job. / Here am I, / where pensioners and strikers / sing and march together, / wanting something new. / Where are you?
3. Here am I, / where two or three are gathered, / ready to be altered, / sharing wine and bread. / Here am I, / where those who hear the preaching / change their way of living, / find the way to life. / Where are you?